

平成26年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492400153	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成23年4月1日
法人名	株式会社 リフシア		
事業所名	リフシア香川		
所在地	(〒253-0082 ) 神奈川県茅ヶ崎市香川3-29-7		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	9名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成27年3月5日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①個別性を尊重し、ご本人のペースやお気持ちに沿った支援に重点を置いており、その中で共同で行う活動に参加できる時間を折り込んで、お客様同士仲良くなって頂ける様にしています。</p> <p>②併設の認知症グループホームとの合同行事には力を入れており、2ヶ月に1度は開催できる様にまいりました。</p> <p>③木造建築で、アットホームながらも、看取りまで対応できる設備、お客様と一緒に手入れを行っている中庭等、設計段階から工夫をしてきました。</p> <p>④身体抑制は人権侵害であり、抑制を行う事はありません。</p> <p>⑤お客様の楽しみや心身の活性化を図れるような趣味活動的なプロジェクトを提案しお一人おひとりの「やりがい」を見出すレクを取り入れます。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成27年3月18日	評価機関 評価決定日	平成27年6月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR相模線香川駅から徒歩約2～3分の交通至便な場所に立地している。玄関を入ると左右に分かれ、左側が当事業所で右側が同一法人のグループホームとなっている。</p> <p>法人の理念である「心を添えてともに生きる」と併せて、独自に「ここに居て良かったと思っただけのケアを目指し」「チームケア力の向上と全スタッフが人材として成長できる組織体制をつくる」を事業所の目指すべき目標・方針を掲げている。</p> <p><b>【看取り介護体制の確立】</b> 医師と看護師が利用者の健康管理と医療相談を行っており、24時間医療的な対応が出来る体制にある。また、看取り介護についての指針を定め、利用者や家族の考えや思いを確認しながら、手厚く対応している。</p> <p><b>【運営推進会議の活用】</b> 運営推進会議は併設のグループホームと合同で2か月に1回開催している。メンバーには自治会役員、市役所職員、地域包括支援センター職員、介護相談員、利用者・家族などが参加している。運営内容や行事、外部評価の受審について話し合い、意見交換を行い、事業所のサービス内容の開示に努めるとともに、地域情報や出された意見をサービス向上に活用している。</p> <p><b>【利用者一人ひとりに応じた楽しみごとの支援】</b> 「個別レク・リハチェック表」があり、散歩、買い物、園芸、体操、体力保持・歩行、ぬりえ、洗濯物量みなど、利用者ごとの楽しみを把握し、一人ひとり、その人に応じた暮らし方を支援している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	リフシア香川
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で唱和している。理念を念頭におきお客様の支援を行っています。	法人の理念である「心を添えてともに生きる」と併せて、独自の目標・方針を作成し、玄関、廊下に掲示している。管理者は新入職員研修時に説明し、職員は日常業務の中で確かめ合って理解を深め実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加し交流を深め事業所に地域の方の訪問が増えて来ています。	自治会に加入し、夏祭りの際は神輿を事業所の駐車場で見物し、自治会館や公民館祭りにも参加している。初詣は近くの神社に行っている。神奈川社会福祉専門学校の実習生を受け入れている。尺八とオカリナ演奏、日本舞踊、和太鼓のボランティア来訪のほか、小学生が訪問して歌と踊りを披露してくれる機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が慰問され一緒に過ごして頂き認知症の方の理解を深めて頂けるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事の写真などを使いながら説明をさせて頂きご感想、ご意見を聞き次回のアドバイスを頂いております。	運営推進会議は、2か月に1回併設のグループホームと合同で開催している。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審についても報告し、意見交換を行い地域の情報を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡・届出（感染症・事故等）を速やかに行い情報の共有をしています。	管理者は市の高齢介護福祉課に業務上の問題点などを報告し、相談をしている。要介護認定更新手続きを家族に代わって立ち会っている。災害時の市民受け入れのため「福祉避難所」を受託し、市との協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていません。施設内を自由に行き来して頂いています。道路が間近にある為自動ドアの内側からの開閉は職員確認のもと行っています。	法人の拘束廃止委員会の研修を受講し、拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関はグループホームと共有のため、外部からは開錠し、内部からは交通量がある道路に面し、安全面と防犯上から家族の了解を得て施錠している。利用者が外出を希望する時には職員が一緒につき添い見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待防止の研修を受けミーティングにて情報の共有をしています。又御家族様よりお話を聞き現状の把握にも努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を受け、地域包括支援センターや成年後見センターとの交流相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い御本人、御家族に理解して頂けるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置がある事を契約時にも説明しており、投書された意見については適切な対応を心がけています。又送迎時ご家族様からのご意見も運営に反映しています。	運営推進会議や朝夕の送迎時に家族と話し合い、連絡表にも意見や要望を記入してもらっている。家族より「利用者の体力が低下してきた」という指摘があり、個別レクチェック表を作成し、実践に努めている。「食事の脂肪分をゼロにして欲しい」という要望があり、業者の管理栄養士と相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談を実施し意見交換を行い、毎日のミーティングより出た意見を毎月のフロアミーティングで検討し反映できるよう努めています。	管理者は、月1回の全体会議や毎朝の申し送り時に日常業務に関する職員の要望や意見を聞き、業務に反映している。所長が年2回個別面談を行い、意見などを聞いている。職員から「道路が狭いので、送迎用の軽自動車を購入して欲しい」との要望があり、軽自動車を購入し活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が決めた個人目標を元に定期的な面談を行い個々の問題などにも共に取り組みスキルアップ出来る環境整備する努力を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT導入や施設内外の研修に積極的な参加を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修委員が同社他事業所の委員と定期開催を行っており事例検討の勉強会を行っている。また小規模多機能型居宅介護の連絡会に参加し情報交換・研修を行いサービスと質の向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期相談よりご本人にケアマネが詳細の聞き取りを行いアセスメントしご要望にお応えできるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様のご要望についても十分な聞き取りを行い、いつでも相談して頂けるようにアプローチをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを中心にアセスメント、計画を立案し本人・家族、スタッフとの検討を重ね支援の決定をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお食事を摂ったり、お手伝いをして頂いたり共同で営めることが出来る様にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の御利用の状況を密に連絡しお客様の变化も御家族と連携を取り対応するだけでなく、御家族の状況も把握し精神的なご負担の軽減に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族などの親近者や友人の方がいつでも面会に来られ、楽しく過ごして頂ける場所の提供をしています。	利用者は家族と一緒に馴染みの店へ外食に行き、墓参りにも出掛けている。利用者の知人やコーラス仲間の友人が来訪した際は、庭の眺めがよい書斎風の共用室「DEN」や居室で歓談し、お茶出しをしている。利用者が自宅で手紙を書いた時に、職員が切手の購入やポスト投函を支援しているケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に長時間過ごしている事で落ち着かなくなってしまう為、一定の時間のみ共同作業をすることで穏やかな時間を過ごすことが出来ています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後ご連絡させて頂き、ご様子をお伺いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の帳票を活用し御本人のニーズを聞きとり出来る限りの支援が出来るように努めています。	職員は、利用者の日常の行動や表情の中から、意向や希望を汲み取るように努めている。アセスメントや生活歴・生活習慣・趣味を参考にしている。意向を自分から伝えにくい方には、入浴時のゆったりとした時や夜間帯の静かな時に話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族様から聞き取りを行い把握している。又ご近所の方からのお話を聞く事もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡帳にご家族から変化・困った事などあれば記載して頂き、送迎時ご家族と情報を共有し把握しています。またケアマネの定期的な訪問も行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当チームでモニタリングし、ケアの検討と見直しを行い新しい計画を作成しご家族に同意を頂いています。	利用開始時に自宅や病院を訪問し、本人や家族と話し合っている。センター方式のアセスメントと独自のリフシアアセスメントを基に暫定プランを作成している。その後、職員間でカンファレンスを行い、医師の意見を参考にしながら介護計画を作成している。利用開始時は通常1か月毎に見直し、変化があれば随時状況に応じて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録管理をしているが、毎日のカンファレンスで気付いたことを発表し情報を共有する事で新しい計画の立案をしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々な角度から御本人・ご家族の状況に応じサービスの提供を検討し支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望のかかりつけ医の受診を継続し必要に応じ訪問診療・医療機関への連携を取っています。	ほとんどの利用者は在宅時のかかりつけ医に継続して受診している。職員が家族に代わって通院介助する時もある。希望の方は、訪問診療や訪問歯科を受診している。受診結果は送迎時に家族から話を聞いたり、電話で聞いて「支援経過」に記録し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はご本人やご家族、スタッフからの情報を共有し適切な支援を行い必要に応じご家族に状況説明と受診の勧めを致しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供し、入院中には診療経過等の情報を頂き病状の把握に努め、退院後の話し合いの場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と十分な話し合いの上、現状の把握し今後の話し合いを常に行っています。	入居時に「看取り介護の考え方」を説明し、同意を得ている。終末期の対応については医師・看護師、家族・職員が話し合いをしていく方針である。職員は、全員が順番にターミナルケアの外部研修を受講し、その内容を基に勉強会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成をしているがオンコール体制でスタッフの迅速な連携対応ができています。お客様の変化に伴い随時対応方法の勉強をしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な避難訓練が行われています。BCPを取り入れた訓練もしています。	防災・避難訓練は年2回、日中と夜間想定での訓練を実施している。訓練には隣のタクシー会社の協力を得ている。茅ヶ崎市と、有事に市民を数名受け入れる防災協定（福祉避難所）を結んでいる。非常災害用の食料と飲料水は3日分程度備蓄している。	防災・避難訓練には、運営推進会議を通じて継続して地域の方の協力を呼びかけ、一層充実した訓練の実施を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重しプライバシーの保護にも努め接遇の勉強会もおこなっています。	職員は接遇に関する勉強会を行い、「プロ意識を持って」を常に念頭に置いて、プライバシーを損ねることのないように言葉かけや対応をしている。職員は日頃より利用者の気持ちを大切にし、傾聴する姿勢で、思いを聞きだすように心掛けている。介護の記録はタブレットに直接入力し、管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴等業務スケジュール通りではなく個々のご希望に添えるようお客様とお話して決定するようこころ掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事時間など個々のペースに合わせた支援を行い心地よい個人に合わせた居場所の工夫を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時や入浴時に必要に応じ爪切り等の整容の支援を行い洋服等もお客様御自身が選んでいただけるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好に合わせたメニューの提供を心がけ事業所共通のメニューだけでなくお好きな物が提供できるようにお楽しみ弁当の日を設けています。又手作りおやつを一緒に行っています。	同系列の業者から献立と共に真空調理方式の食材が届く。利用者は職員と一緒にテーブル拭き、おしぼりの準備を行い、職員と一緒に食事をしている。おやつには利用者の好みのホットケーキなどを作っている。誕生会ではケーキを手作りしてお祝いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は個別に合わせて用意し、水分も種類多くし好きな物で十分な水分が摂って頂けるようにし器の工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	セルフケアをして頂きその後に仕上げ磨きさせて頂き口腔内のチェックをしています。また歯科医師・衛生師によるアドバイス頂き義歯管理及び口腔ケアの勉強会をしております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターンの観察を行い、尿便意を大切に誘導時間の調整を行います。又安全にトイレ誘導できるように下肢の訓練をしています。	排泄記録をもとに排泄パターンを把握し、トイレ誘導を支援している。利用者が立ち上がった時落ち着きがない動作から察知し、トイレへの声かけをしている。入居後におむつの方がリハビリパンツに、リハビリパンツから布パンツへ改善されたケースも多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量をチェックし水分管理し、自然排便をうながす為に腸の動きを活発にする体操をしています。服薬も状態によりご家族と相談で行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は強制ではなく御本人の希望を取り入れ午前午後に入浴して頂いています。ゆったりと入浴して頂く為に温泉やアロマの入浴剤を用意しています。またお体の状態に合わせてリフト浴も行っています。	通いや泊りを利用する方は基本的には週3回の入浴で、自宅で入浴している方は週2回入浴支援をしている。檜の浴槽が2つあり、そのうち一つはリフトが付いている。また、重度の方用にシャワートロリーがある。入浴をしたがらない方には声かけする人や時間を変えて工夫している。季節にはゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の観察を行い睡眠のパターンを知る事で必要なお客様には医師・看護師との連携を図り服薬管理を行っています。また日中の活動制に着目し適度な運動をする事で快眠できる様に心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服量・薬効をファイルし職員が確認出来るようにしています。また状況の変化を看護師と共有し診察時に医師への報告をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1か月の予定表を配布し、お客様が予定を見る事で楽しみを持たれ来所され楽しい会話もできるようにしております。定期的なボランティアの演奏会で普段と違うひと時を過ごして頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブを組み入れ花見などに出掛け、外気浴をしながらお茶などを楽しんでいます。またお客様のご希望で買物などにも行っております。	天気の良い日には、車イスの方も事業所の周りや駐車場近辺を散歩している。近くの諏訪神社や自治会館方面を散策している。玄関わきのベンチで外気浴をしたり、職員と一緒に買い物にも出掛けている。遠方への外出の機会としては、海老名市の芝桜見物、飯田牧場でアイスクリームを食べる、里山公園の鯉のぼり見物などがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別支援となるがお客様の必要な物を買に行かれる時に同行させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様のご要望に合わせて行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる物・懐かしい物を四季色々飾っています。テーブルに花を飾ったりしています。室温は適宜快適な温度に保っております。また換気する事で新鮮な空気を取り込んでいます。	リビングは天井が吹き抜けとなっていて自然光が入り、明るく清潔に保たれている。リビングと脱衣場は床暖房の設備があり、温・湿度管理にも配慮している。庭を眺めるしゃれた六角形の共用室「DEN」もある。絵馬やひな祭り、クリスマスの飾りで季節感を採り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ペースにソファーや大きさの違うテーブルや椅子を設置する事で和やかにくつろげる空間の演出をしています。また食事席は気の合った方々が座れるようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたなくなった物をお持ち頂いたり枕元に必要な物を置いたりお一人おひとりに合った工夫をしています。また部屋によっては大きさの違う椅子を置く事で部屋の封息をリラックスできるようにしています。	泊りの居室は9部屋で、そのうち畳敷きの部屋が2部屋ある。各居室の壁紙はそれぞれ異なる花模様となっている。泊りの方はパジャマなどの衣類を持ち込んだり、家族が花を飾ったりして、居心地よい居室になるように配慮している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	靴に名札をつけ自分で出し入れし脱ぎ履きができるようにしてあります。午睡時の使用する部屋はご自分確認出来るように表示してあります。トイレ等も見て分かるように表示してあります。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

リフシマ香川

作成日

平成27年7月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	④	防災・避難訓練における地域との協力連携方法を考える。	災害時における地域の方々の協力を得る場は、まず視察・視学を行う。	避難訓練時には自治会の方と連携し、事業の更なる見直しを行う。	8月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

